

製品名: PIPK I γ ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab16162**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	80kDa

抗原情報

遺伝子名	PIP5K1C PIP5K1C; KIAA0589; Phosphatidylinositol 4-phosphate 5-kinase type-1 gamma; PIP5K1-gamma; PtdIns(4)P-5-kinase 1 gamma; Phosphatidylinositol 4-phosphate 5-kinase type I gamma; PIP5K1gamma
別名	
遺伝子 ID	23396.0
SwissProt ID	O60331
免疫原	抗血清はヒト PIP5K1C 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 305-354

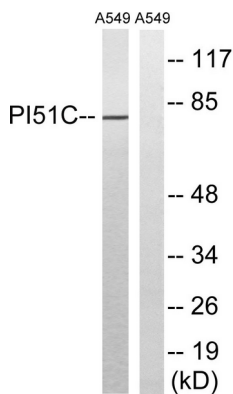
背景

ホスファチジルイノシトール-4-リン酸5-キナーゼ1型ガンマ (PIP5K1C) ホモ・サピエンス この遺伝子座は、I型ホスファチジルイノシトール-4-リン酸5-キナーゼをコードしています。コードされているタンパク質は、ホスファチジルイノシトール-4-リン酸のリン酸化を触媒し、ホスファチジルイノシトール-4,5-ビスリン酸を生成します。この酵素はシナプスに存在し、エンドサイトーシスと細胞移動に関与することが分かっています。この遺伝子座の変異は、致死性の先天性拘縮症候群と関連付けられています。異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが記載されている。[RefSeq 提供、2010年9月]、触媒活性: ATP + 1-ホスファチジル-1D-ミオイノシトール 4-リン酸 = ADP + 1-ホスファチジル-1D-ミオイノシトール 4,5-ビスリン酸。、疾患: PIP5K1Cの欠陥は、致死的な先天性拘縮症候群3型 (LCCS3) [MIM: 611369]の原因です。イスラエルのベドウィン型多発性拘縮症候群Bとしても知られています。LCCSは、早期胎児水腫および無動、ペナ・ショケア表現型、前角ニューロンの変性および極度の骨格筋萎縮を伴う特定の神経病理を特徴とする常染色体劣性疾患です。LCCS3患者は、出生時に重度の多関節拘縮を呈し、主に脚に重度の筋萎縮および筋萎縮がみられます。LCCS3は、水腫、骨折、および多発性翼状片がみられないことで、元のLCCSと区別できます。、酵素調節:TLN2との相互作用によって活性化されます。、機能:シナプスにおける膜の波立ちとクラスリン被覆ピットの組み立てに関与します。RAC1依存性のアクチンフィラメントの再編成を媒介します (類似性による)。ホスファチジルイノシトール-4,5-ビスリン酸の生合成に関与します。、類似性:1つのPI5Kドメインを含みます。細胞内局在:細胞質、細胞膜に関連。接着斑、膜の波立ち、および細胞膜陥入部で検出されます。、サブユニット:TLN1およびCSKと相互作用します (類似性による)。TLN2およびARF6と相互作用します。

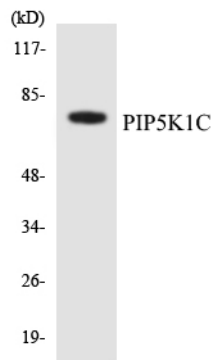
研究分野

イノシトールリン酸代謝、ホスファチジルイノシトールシグナル伝達系、エンドサイトーシス、焦点接着、FcガンマRを介した貪食作用、アクチンと細胞骨格の調節、

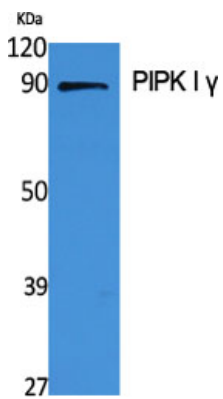
画像データ



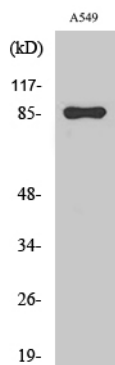
PIP5K1C抗体を用いたA549細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



PIP5K1C 抗体を使用した HepG2 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



PIPK I γ ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



PIPK I γ ポリクローナル抗体を用いた A549 細胞のウェスタンブロット解析